

◆連載

ま
留萌
むかし

●町政から市政へ

昭和22年10月1日、留萌の新しい出発を祝うかのような青空が広がっていた。留萌町民の長い間の悲願であつた留萌市の誕生である。

留萌町民の市制への気運は明治43年に始まる留萌港の修築頃からである。その後の大留萌建設事業の推進と完成によつて、留萌町民の気運は一段と盛りあがつたのである。

しかし、その後日本は太平洋戦争へと突入し、この問題も一時棚上げとなつてしまつた。昭和20年8月、日本は連合国へ降伏し終戦となる。だが、日本中が敗戦に打ちひしがれていた中で、留萌は、日本の再建の一翼を担い、将来へ向けて、発展させようとしていた。そこで、昭和21年末の町議会での増川議員の発言に端を発して、急速に市制移行への世論が沸きあがつた。翌昭和22年1月31日、留萌劇場で全町民大会を開き、全会一致で、留萌市制促進期成会が

結成された。ここで、市制施行についての全町民の意志は統一され、この運動の盛りあがりは最高潮に達した。その後、正式に2月27日町議会の議決をへ、さらに、5月に地方自治法が施行されたことにより改めて6月30日に再議決し、正式に市制施行の中央への陳情を行えるようになった。この年公選で初の町長となつた原田太八氏を先頭に町民一丸となつて、北海道庁および内務省へ運動を展開していく。

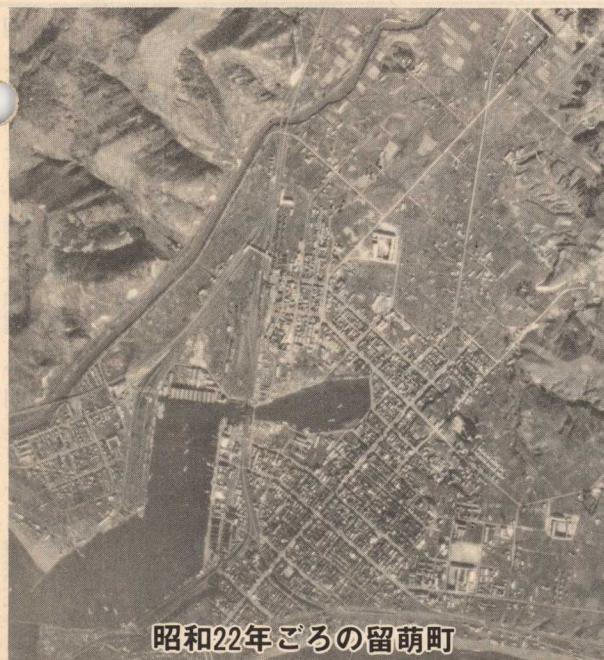
8月11日、上京していた期成会委員は、内務省に陳情し、引き続き五日間、内務省と折衝し、多くの手続きを済ませて帰町した。8月28日から二日間、内務省係官の町政視察が行なわれ、係官の帰京後、意見書を内務次官に提出した。その結果、9月29日附官報第三〇七号をもつて留萌市が誕生することとなつた。

10月1日から10月3日にかけて市内の各所で、多くの催物雷の拍手をうけたといわれる。市制施行記念の祝賀行事は午前8時に留萌神社に市民が集合し、祈願のあと旗行列を行つた。神社から港をまわり市役所前をとおり留萌小学校

10月1日、午前9時、留萌小学校の市制施行記念式典の会場には多くの喜びにあふれた市民代表の顔があつた。来賓は内務大臣代理をはじめ道知事、札幌市長、函館市長代理、国会議員、道議会議員、管内町村長など多士多賀な人々で埋まつた。

式典は原田太八初代留萌市長の式辞に始まり、来賓祝辭、祝電代読、玉置信一促進期成会長の経過報告、伊佐津和平市議会議長挨拶、労働者の表彰等が行なわれ、最後に祝典に入つた。また、当時留萌に駐屯していた進駐軍の将兵の代表も出席し、参列者から万雷の拍手をうけたといわれる。

昭和22年ごろの留萌町



で解散というコースだつた。

ものであつた。

沿道には市民があふれ、行進はトランペットの行進曲にのつて行なわれたという。こ

の異常な速さは、ひとえに三万留萌町民の市制施行に對する熱意のあらわれという

の年はニシン漁も豊漁であり、すべてに活気に満ちており、行列に参加した市民も、沿道の市民も、留萌のこれから的发展を信じてうがう者はいなかつたのである。そして、この三日間は市民が喜びをわけあつた三日間であつた。

市制施行の運動が明治時代からあつたとはい、運動が具現化してから市制施行まで

のスピードは他に例のない

ことは敬服に値する。我々留萌市民はこの先人たちの気概を感じ、留萌の未来をつくつてゆかねばなりません。